

ODFPoleFigure1.5とODFPoleFigure2の違い

材料の集合組織解析に極点図を用いる事がありますが、測定される極点図は完璧ではありません。このようなデータを元にODF解析する場合、事前に測定データのError評価を行い各種補正を駆使して最適なODF入力データが作成できれば、再測定せずに最良の結果が得られます。このような理想を実現するための極点図処理プログラムがODFPoleFigureシリーズです。シリーズのODFPoleFigure1.5とODFPoleFigure2極点データ処理機能を比較紹介します。

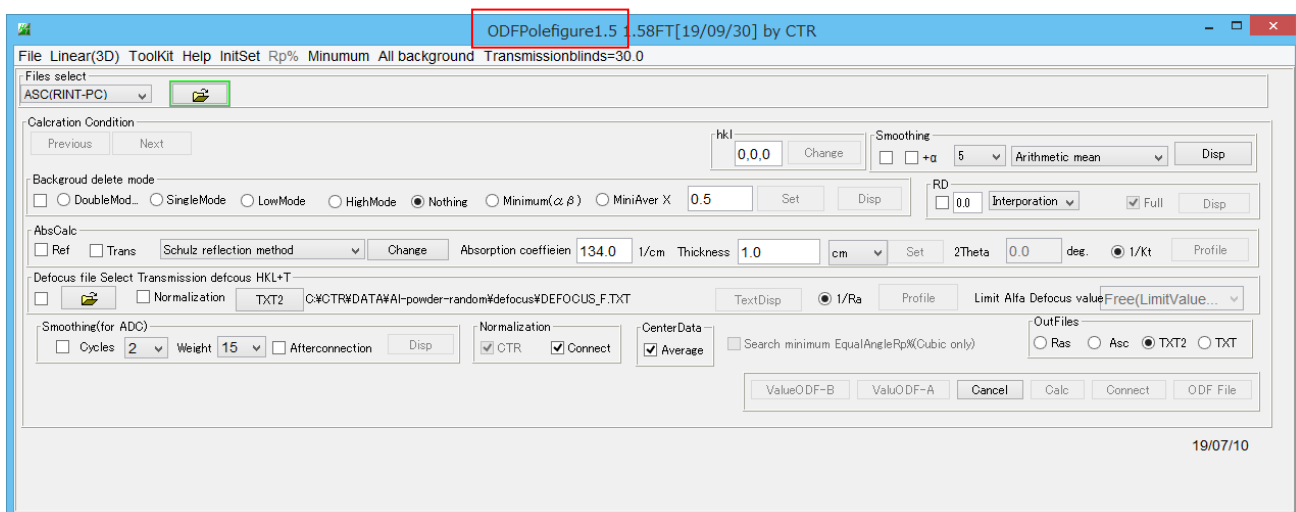
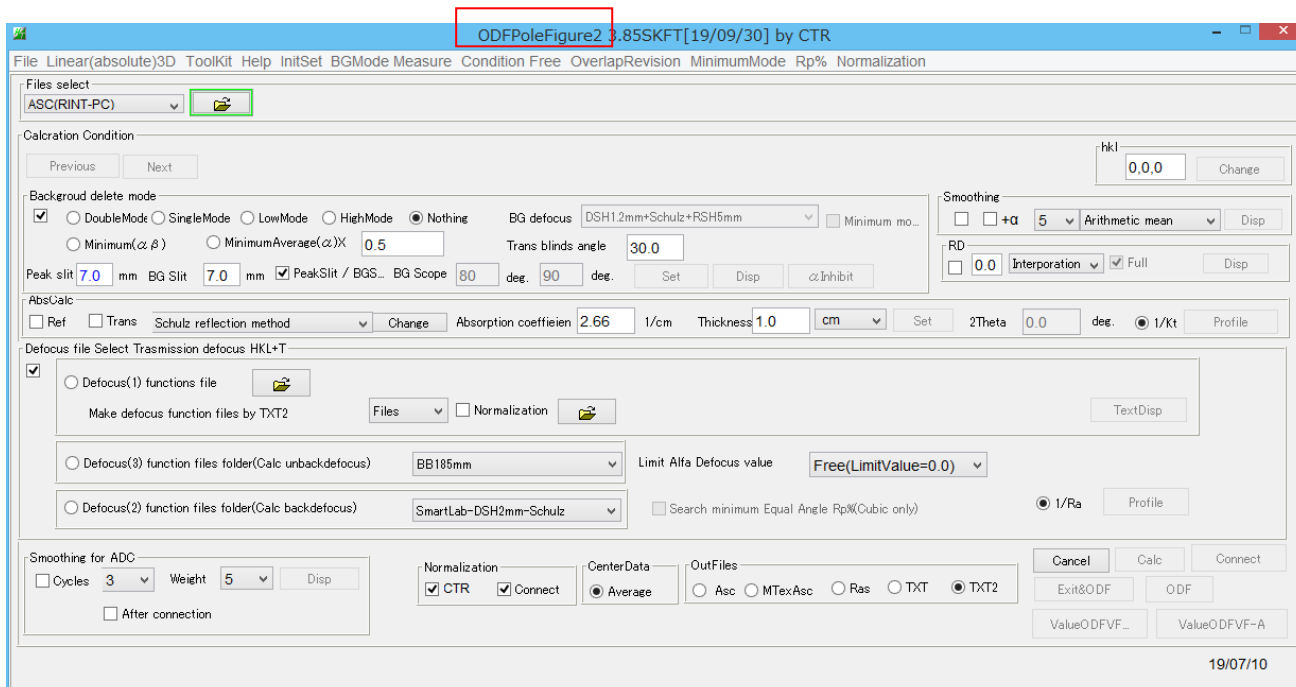
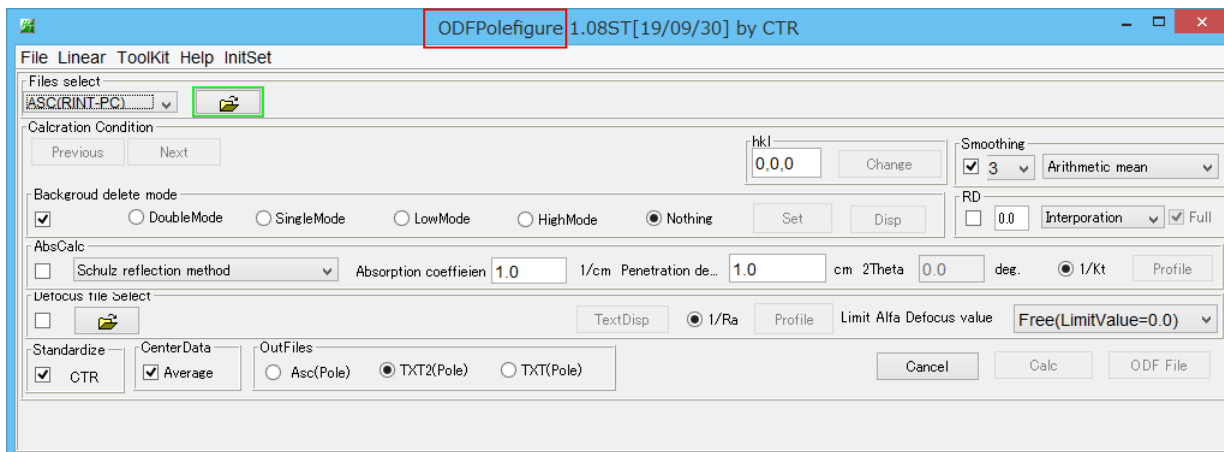
2019年07月10日

HelperTex Office

1. 概要
2. メニュー機能の違い
 2. 1 RapidDataCut:RAPID の ASC データから測定されていない領域をカット
 2. 2 極点図の表示法の違い
 2. 3 T o o l K i t の違い
 2. 4 扱えるデータ
 2. 5 バックグラウンド補正モード
 2. 6 ルーチワーク機能
 2. 7 極点図の透過反射接続を行う場合、透過法の最大測定領域を指定し領域外を Cut
 2. 8 隣接する極点図相互の畳み込み補正
 2. 9 R p %サーチ条件編集
 2. 1 0 極点図規格化モード
3. 入力ファイル
4. バックグラウンド削除
5. 吸収補正
6. 平滑化
7. RD 補正
8. Defocus 機能
9. 最適化 R p %
- 1 0. 規格化
 - 1 1. 極点図の中心平滑化
 - 1 2. 処理結果出力ファイル
 - 1 3. ValueODFVF による R p %確認機能
 - 1 4. P F t o O D F 3 へのデータ渡し

1. 概要

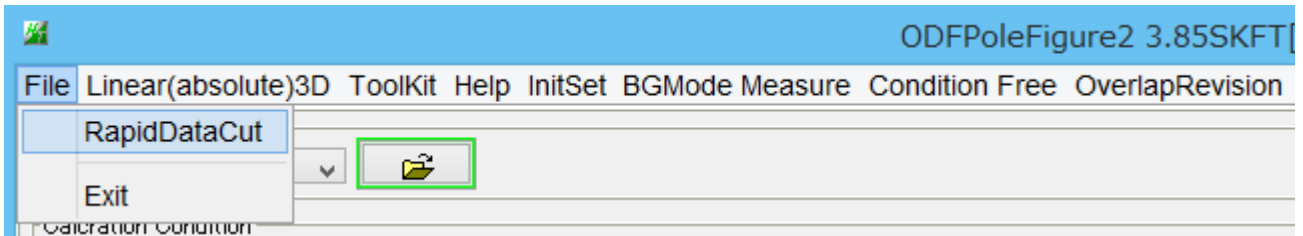
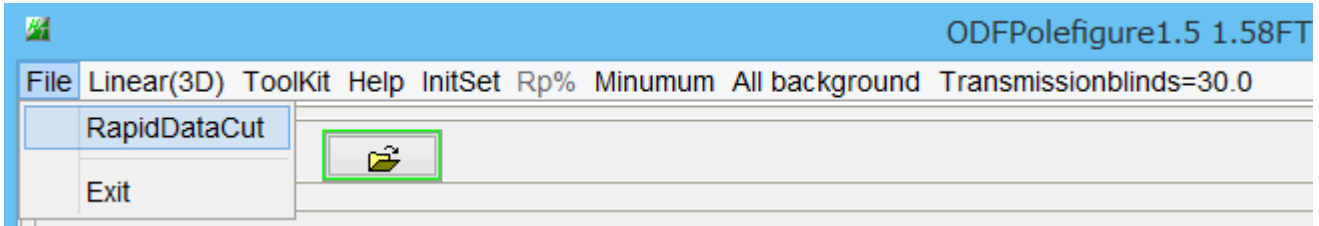
CTRソフトウェアの極点データ処理として、ODFPoleFigureが作成され機能追加版のODFPoleFigure2に更新された。ODFPoleFigureはODFPoleFigure2機能の一部を追加し、ODFPoleFigure1.5に改名された。



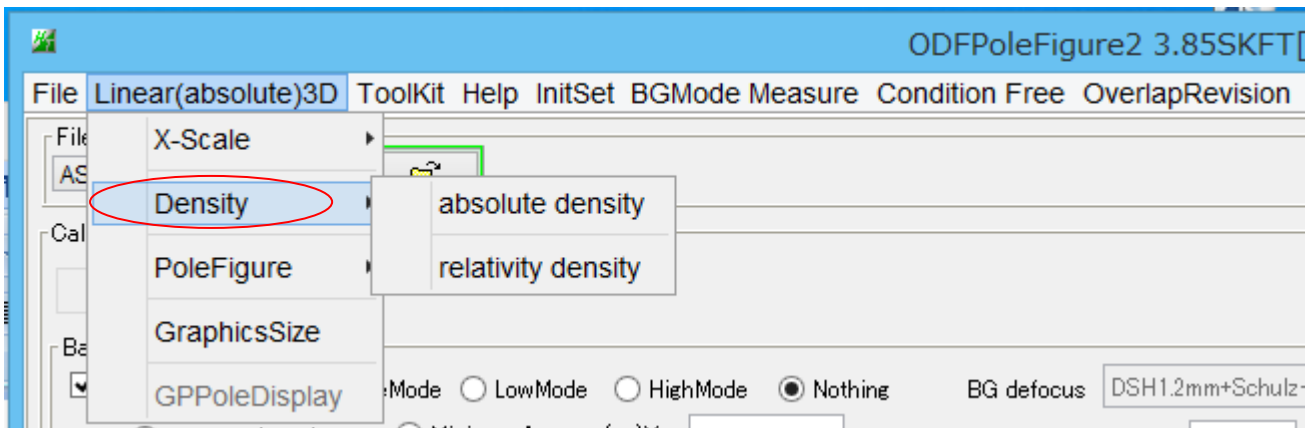
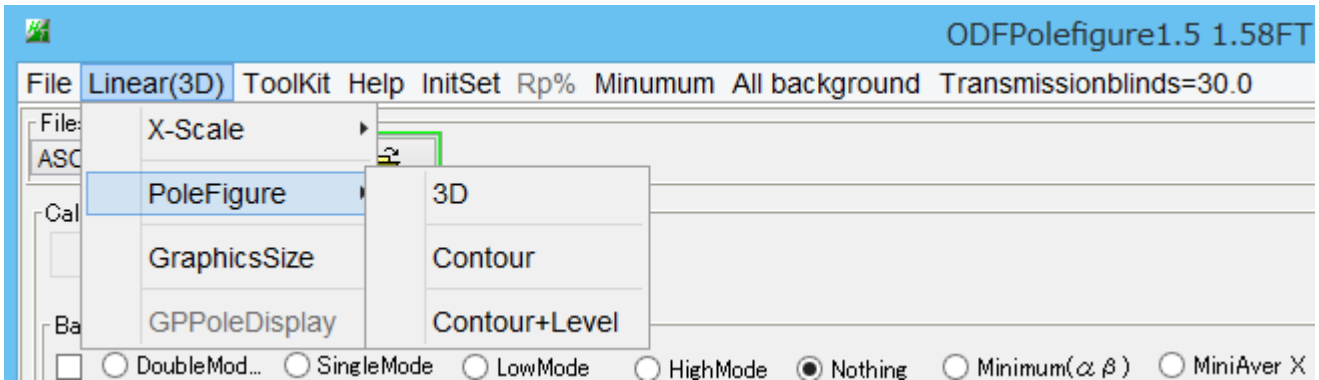
ODFPoleFigureは現在メンテされていません。

2. メニュー機能の違い

2. 1 RapidDataCut:RAPID の ASC データから測定されていない領域をカット



2. 2 極点図の表示法の違い

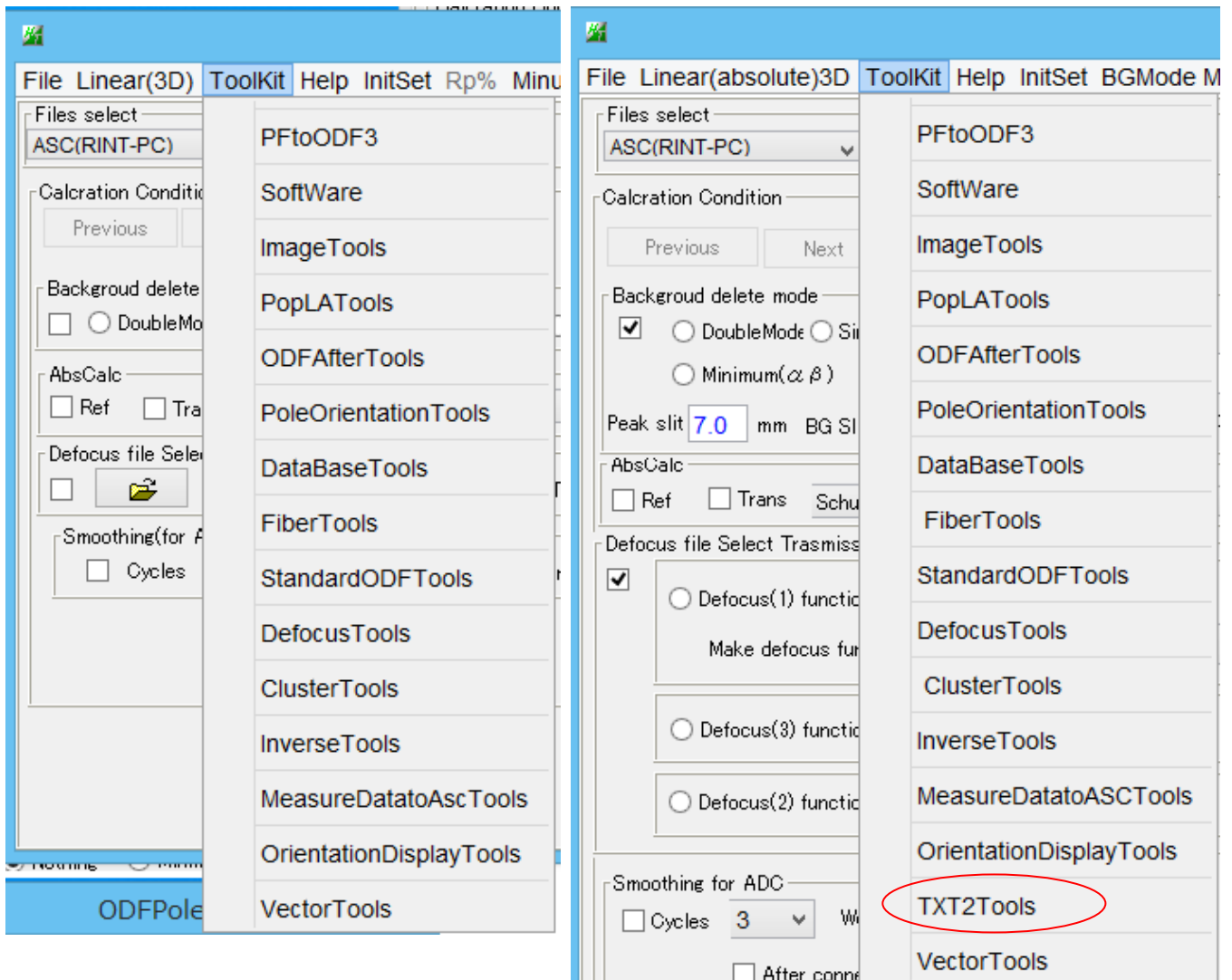


ODFPoleFigure2 には、複数の極点図の相対強度表示がサポートされています。

2. 3 ToolKitの違い

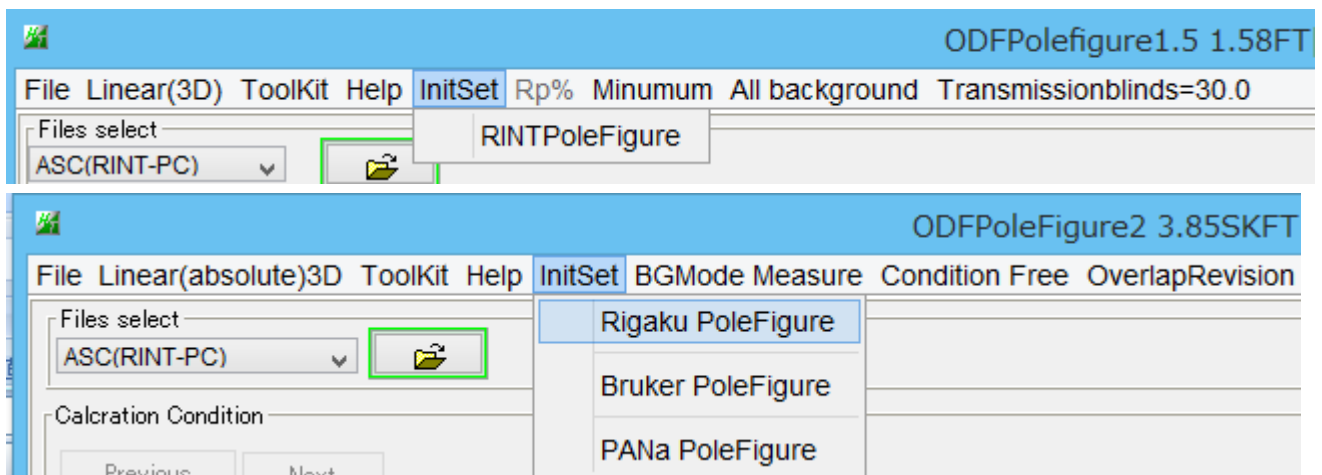
ODFPoleFigure1.5

ODFPoleFigure2



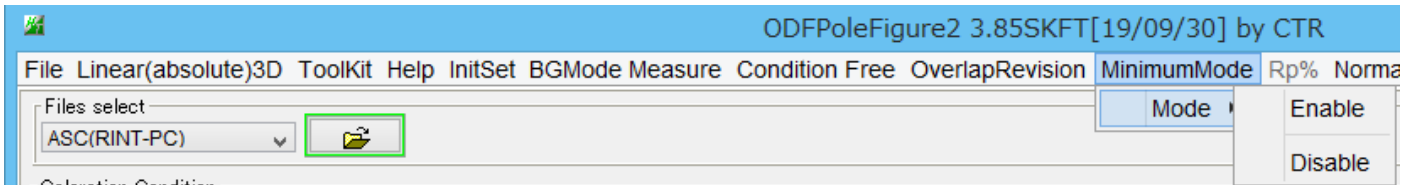
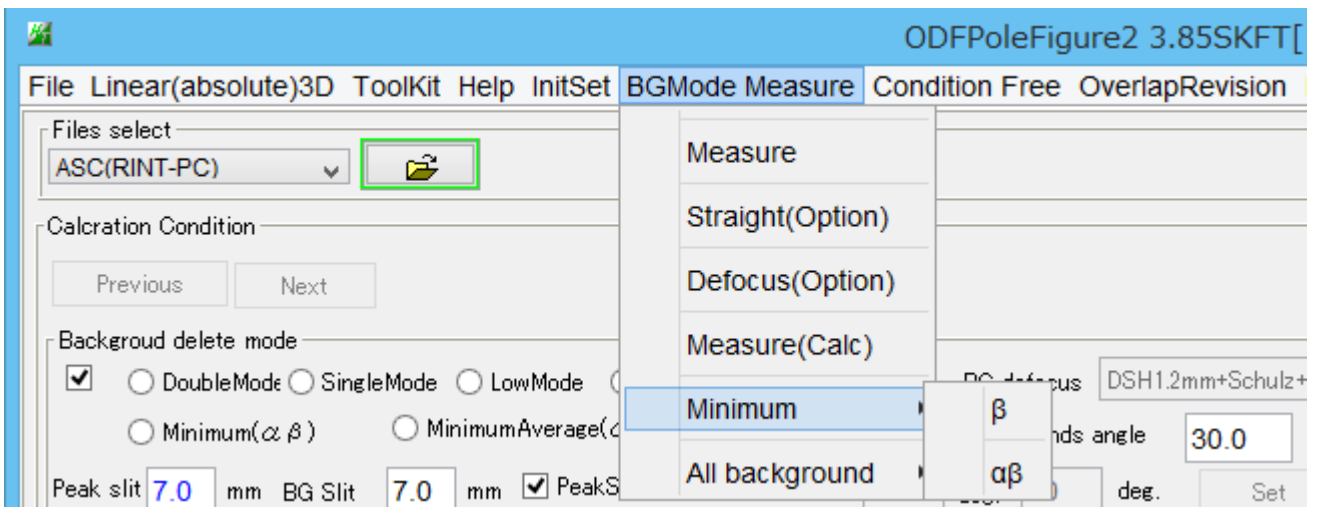
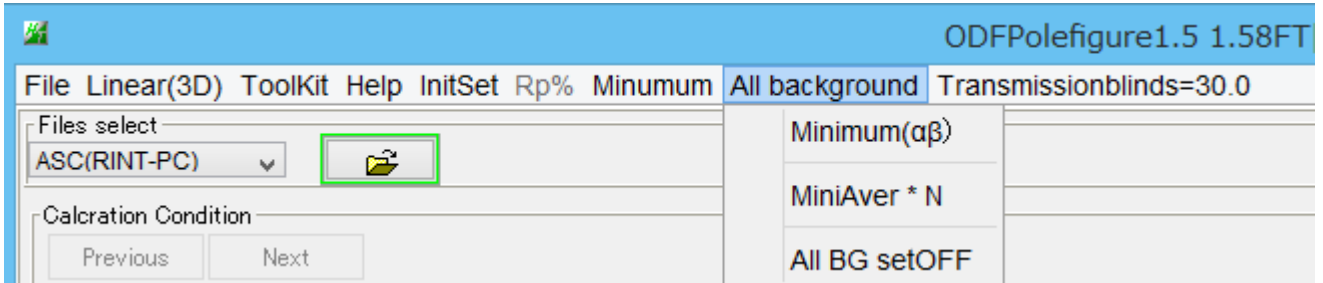
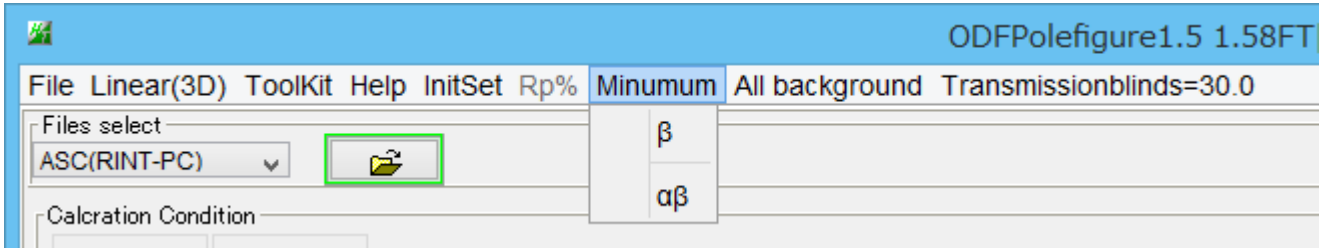
ODFPoleFigure2 には、TXT2Tools による PoleFigureDifference ソフトウェアの呼び込みで近接極点図の畳み込みを差し引く機能が使えます。

2. 4 扱えるデータ



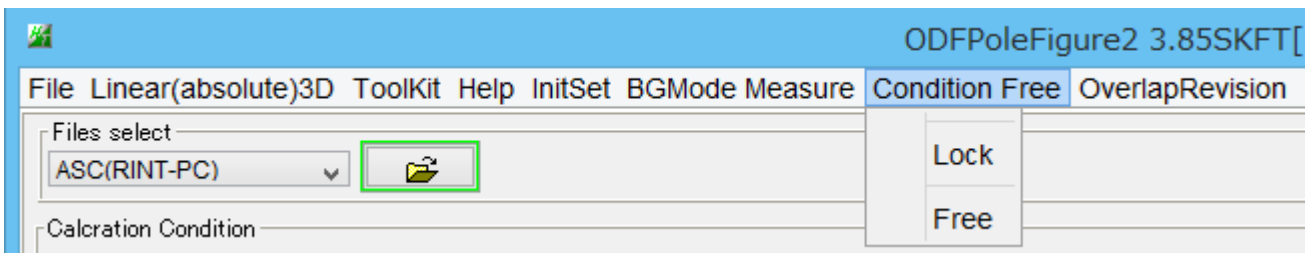
ODFPoleFigure2 は Rigaku 以外に Bruker, PANa 社のデータを扱います。

2. 5 バックグラウンド補正モード



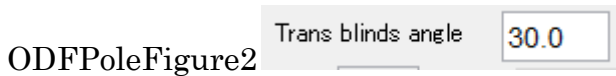
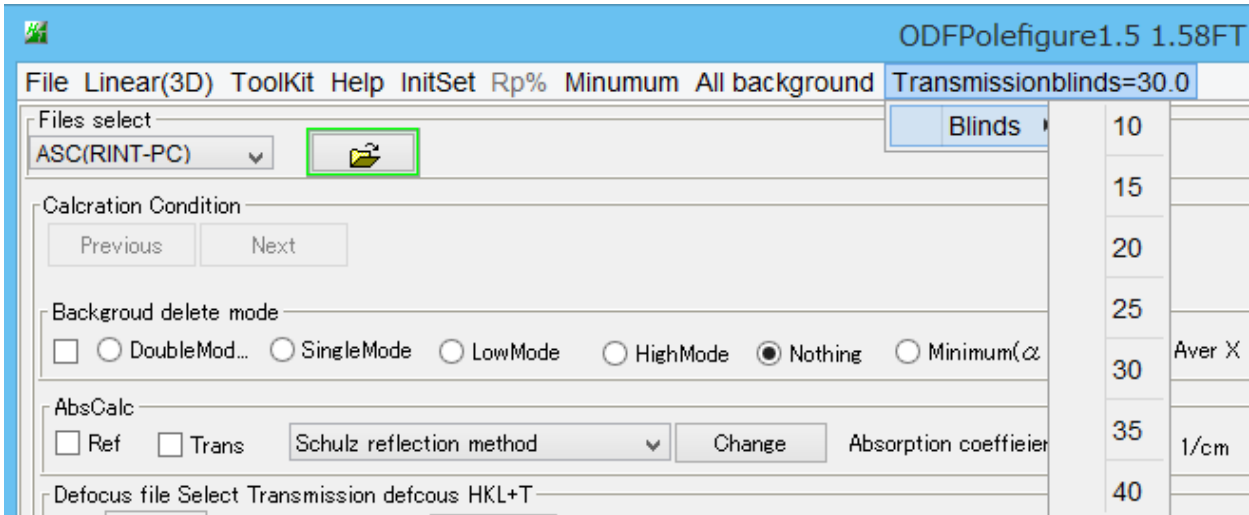
ODFPoleFigure2 では各種バックグラウンド補正モードがサポートされ、最小化Rp%の強力なツールとして使用出来ます。

2. 6 ルーチワーク機能



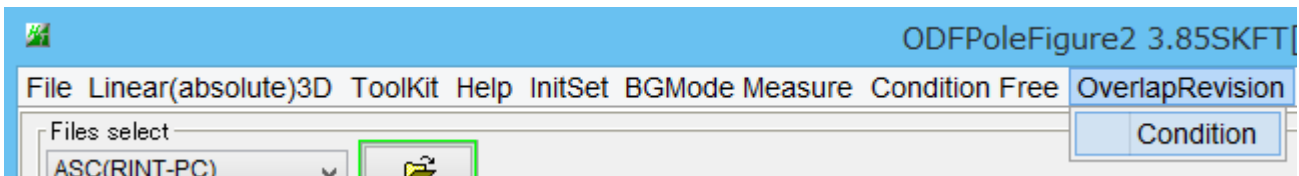
ODFPoleFigure2 では、条件編集をLockさせて常に同一処理を行うモードをサポート

2. 7 極点図の透過反射接続を行う場合、透過法の最大測定領域を指定し領域外をCut



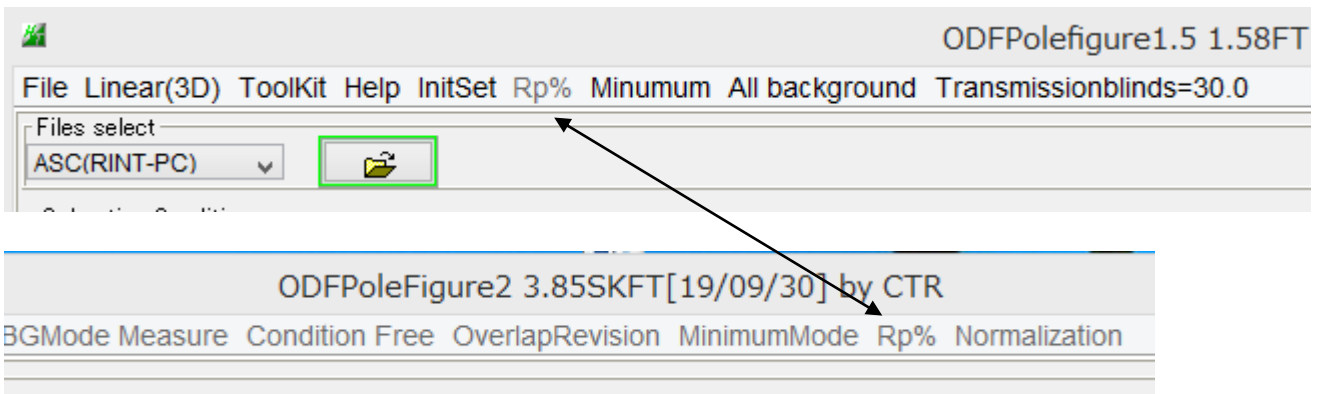
どちらも機能があります。

2. 8 隣接する極点図相互の畳み込み補正



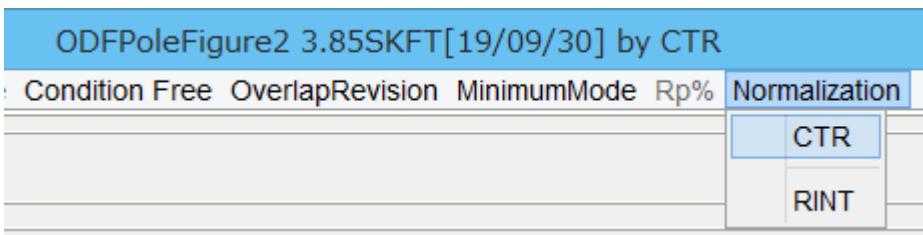
ODFPoleFigure2 の機能では高分子材料などで測定される現象を補正する

2. 9 Rp%サーチ条件編集



どちらもサポートされています。

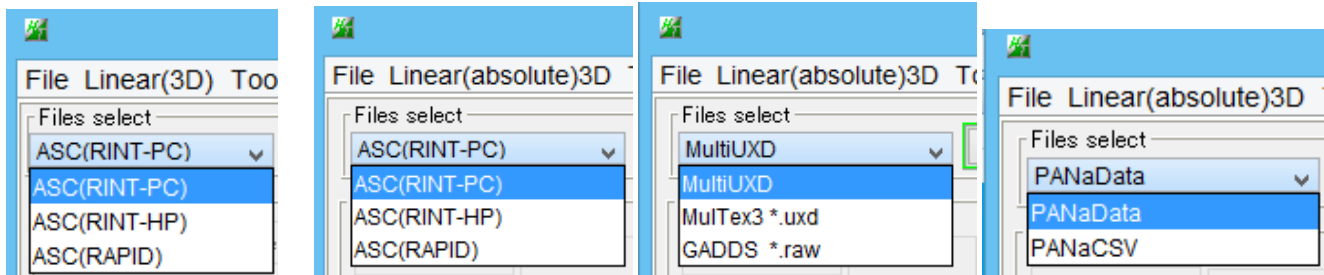
2. 10 極点図規格化モード



ODFPoleFigure1.5 は CTR モードであるが、ODFPoleFigure2 は RINT モードにも対応

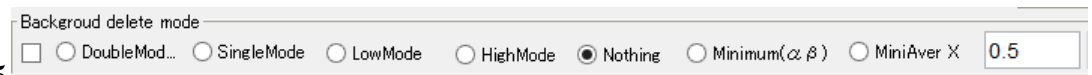
3. 入力ファイル

ODFPoleFigure1.5 ODFPoleFigure2

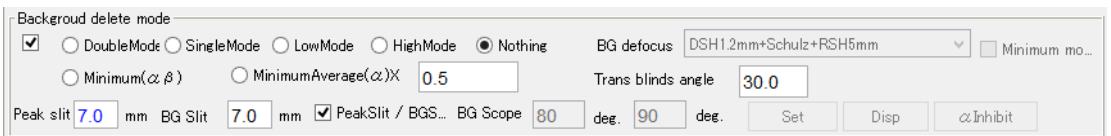


4. バックグラウンド削除

ODFPoleFigure1.5



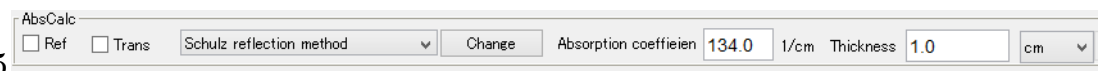
ODFPoleFigure2



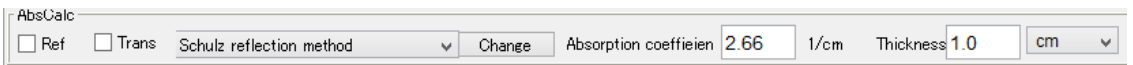
ODFPoleFigure2 は機能が豊富

5. 吸収補正

ODFPoleFigure1.5



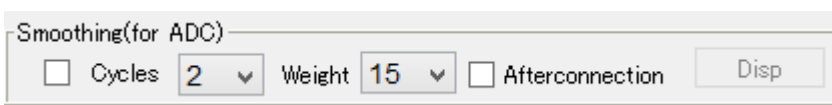
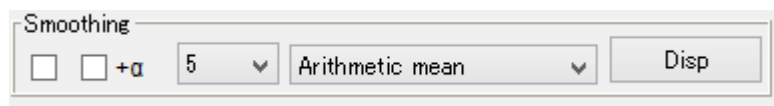
ODFPoleFigure2



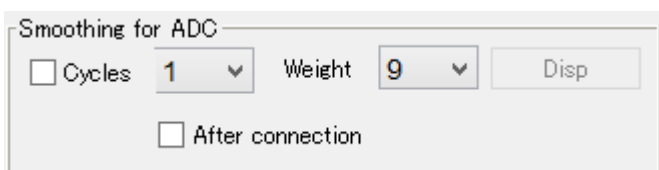
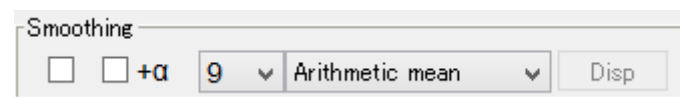
どちらも、反射、透過法とも補正可能

6. 平滑化

ODFPoleFigure1.5



ODFPoleFigure2

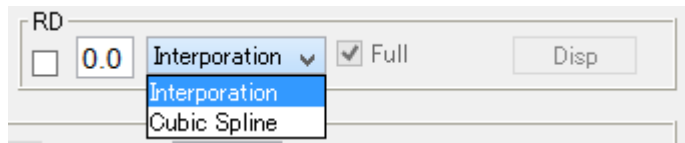


どちらも2種類の平滑化機能があります。

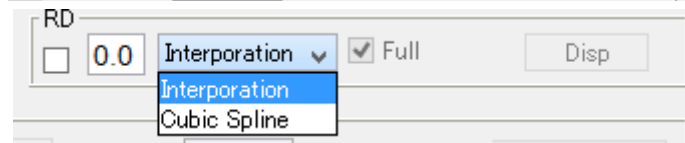
ODFPoleFigure2 は反射透過接続後の指定も可能

7. RD 補正

ODFPoleFigure1.5



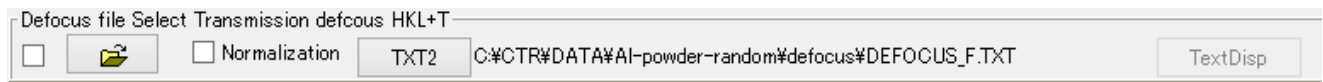
ODFPoleFigure2



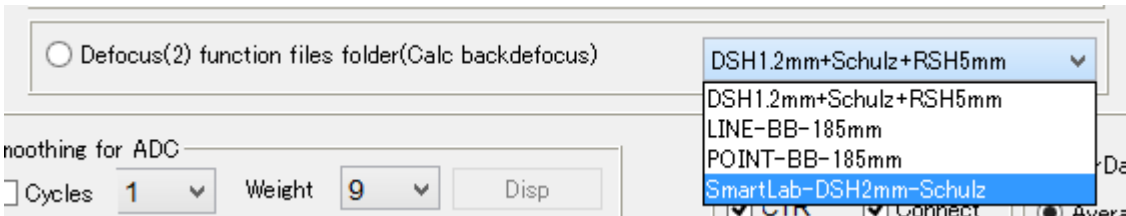
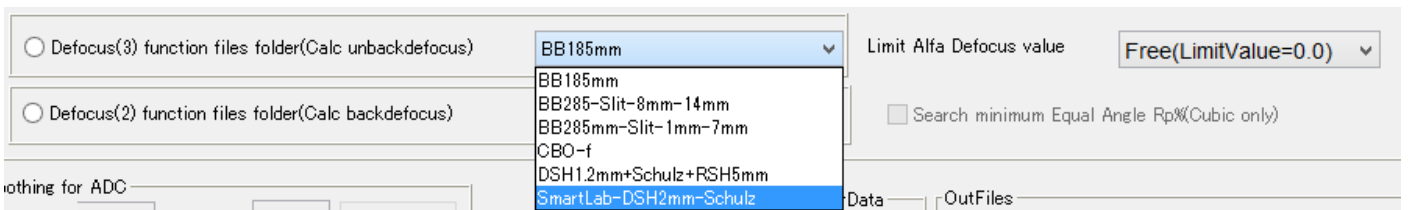
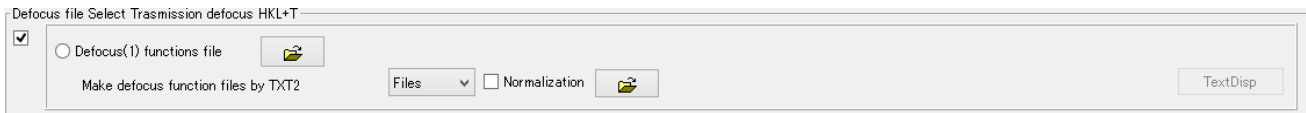
どちらも同じ機能

8. Defocus 機能

ODFPoleFigure1.5



ODFPoleFigure2



ODFPoleFigure2 は内部計算 defocus 補正機能が付属します。

9. 最適化 R p %

ODFPoleFigure1.5

Search minimum EqualAngleRp%(Cubic only)

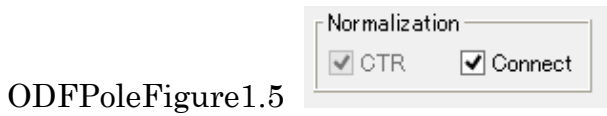
ODFPoleFigure2

Search minimum Equal Angle Rp%(Cubic only)

バックグラウンド、defocus 変更しながら最適極点図を得る機能です。

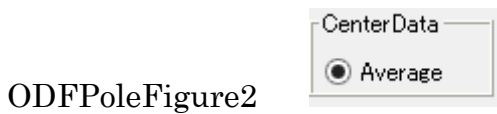
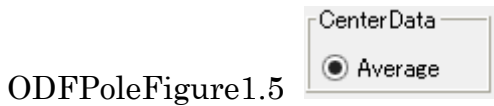
どちらも同一機能

1 0. 規格化



ODFPoleFigure2 は RINT 互換モードをサポート Connect は透過反射接続後の規格化

1 1. 極点図の中心平滑化

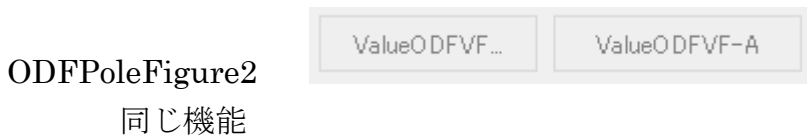
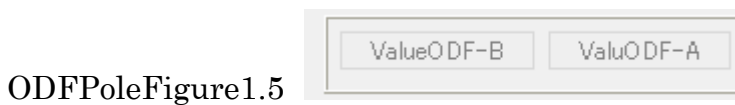


1 2. 処理結果出力ファイル

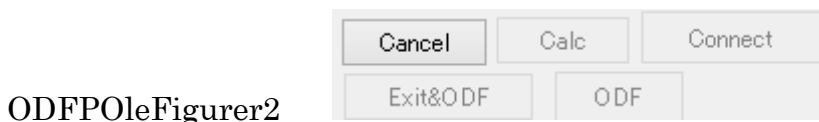


MTEXASC は PFtoODF3 でも可能なので差はありません。

1 3. ValueODFVF による Rp%確認機能



1 4. PF to ODF 3 へのデータ渡し



反射データと透過データの場合、接続も可能、ほぼ同じ機能